



「みつくる」という言葉には、【見てな
む】や【見つける】といった意味があ
り、これまでのプラン17年の成果の浸
透と新たな価値の発見への期待を込
めています。

そして、「みつくる」の「ミ」に「①みん
なで(共創)②未来を③みりよくてき
に」の3つの意味を込めて、第6次プラ
ンを子どもたちのために創造してい
きたいとの想いも加えています。



令和7年度

茨木市 授業KAIZENプロジェクト

取組み成果 リーフレット

令和8年2月 授業KAIZENプロジェクトチーム



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

つきたい力

- ① 目的に応じて情報を収集し、考えを形成する力
- ② 自分の考えを相手に分かりやすく伝える力
- ③ 主体的に学び、学んだことを活用する力

取組みの概要・ポイント

- 国語科における授業改善 つきたい力を確実につけるための言語活動の充実
- 国語科でつけた力を生かして他教科での教科横断的な学習に取り組む
- 探究的な学びの過程を意識した学校図書館の活用



学校の取組み

具体的な取組みの内容

つきたい力を確実につける言語活動の充実

【言語活動は子どもの学びを「見える化」する大事な場】

友だちと読み合い
良さや助言を伝え合う



言語活動

つきたい力

そのために

単元シート

目的を明確にし、子どもと共有する。

市立図書館のSDGs セット貸出を利用

1年 国語「なにに見えるかな」
生活科で集めた落ち葉や木の実を使って製作した工芸の作品について、何に見えるかをペアで話し合う

6年 国語「発信しよう、私たちのSDGs」
SDGsのテーマごとにパンフレットを作り、他校や地域に発信する

探究的な学びを支える学校図書館の活用

他校から物流を通じて
多くの図書を貸借

【情報を集め、比べて、整理し、考えをつくる】



思考のプロセスを思考ツールで見える化する。

Yチャート

Xチャート

ベン図

3年 総合「みんなにやさしい町について考えよう」
図書資料や体験を通してバリアフリーについて調べ自分たちの町で大切にしたいことや自分たちにもできることを考える

4年 総合「天王EXPOを開こう」
アジアの国々の人との出会いを通して、衣・食・住を中心に調べ、日本との共通点や相違点を考える

国語科と他教科をつなぐ教科横断的な学習

【国語の指導事項を
教科学習の土台に】



カリマネマップ

言語能力がどう
学びを支えるか
を示す

2年 生活科×国語「つたえたい！天王のまちのすてき」
町たんけんて訪れたお店や施設で見つけたすてきな「人」「もの」「こと」を伝え合う
相手に伝わるように話す事柄の順序を考える。

5年 社会×国語「考えよう！未来の自動車」
安全や福祉、環境などをテーマに未来の自動車について図表や写真などを効果的に活用してプレゼンテーションを作る
図表の効果的な活用法について理解し、話や文章に生かす力。

読書活動の推進

【本で つながる】



青空読書

のびのびと開放的な雰囲気の中
楽しく読書を

「誰かに届けたい」という気持ちで本と向き合う



読書郵便



先生シャッフル
読み聞かせ

先生の個性×本の魅力で読書体験が豊かに

取組みを通しての子どもの変容

- ・各教科で調べ学習に取り組み、日常的に本やタブレットを使用して調べられるようになってきた。
- ・主体的に学習課題に向かい、言語活動を通じて、自分の思いや考えを表現できる子が増えた。
- ・調べたことから自分の考えをもち、相手に分かりやすく伝えようと工夫できるようになってきている。
- ・本に関心を持つ子が増えた。読書の習慣が以前に比べると身についてきた。

	児童アンケート	R 6	R 7
分からないときや不思議に思ったとき自分で調べるなどしていますか	75%	79% (+4)	
以前より、読書への関心が深まった	80%	86% (+6)	
文章を書いた後、相手に正確に伝わるようにことばの見直しをしている	85%	92% (+7)	

つきたい力

- ・自ら課題を設定して取り組む力
- ・正しく情報を活用する力
- ・自分の考えをまとめ、伝える力

取組みの概要・ポイント

- ・思考力・判断力・表現力の育成につながる読解力の向上
- ・読解力向上の取組みを軸に、「根拠を明確にして考えを構築する」
- ・学校図書館の活用と図書委員会の活動で、学校全体で「読書の芽」を育てる

学校の取組み



「ITO」 Input (認識) → Think (思考) → Output (表現) を意識した授業 × 学校図書館

語彙の確実な習得



1年国語科「私のタンポポ研究」
お互いの意見をふまえ、相違点に対して根拠を持って話し合う。

文章構成をとらえる
→他教科の学びへ

読解力向上の取組み



意味のあるまとまりをとらえる
学習語彙の定着

視写

図書委員会による読書推進



朝読・ブックトーク・平和読書・巡回文庫
文化発表会での展示・おすすめ本コーナー

使える「ことば」にするために—各教科のつきたい力につながる魅力的な言語活動の設定

Input

Think

Output

3年国語科
「絶滅の意味」課題設定（問いをつくる）
とレポート（考えの形成）で図書を活用



単元はじめに
言語活動の
ゴールを提示

3年理科「茨木市に適した発電所について考えよう」
収集した事実を整理・分析し、考えを形成



3年英語科
自分の将来や夢などについて考え、
調べた職業について目的に応じた形で説明・発表



目的に応じて必要な情報を見つけ、それらを活用しながら、自分の考えを表現する。

教科の学習内容×言語能力でつながる教科横断的な学習

取組みを通しての子どもの変容

- ・学校図書館やICTを活用することで、対話が生まれ、交流することを通して、視野が広がり、考えを深めることができた。
- ・「なぜ課題に取り組むのか」「学びが何につながるのか」を授業者が大切にすることで、生徒自身も学びのつながりを意識できるようになっている。

アンケート項目

	4月	12月
授業では、学習課題の解決や目標の達成にむけて、自らすすんで考え、取り組んでいる。	83.8%	87.0%
学級の友だちとの考えの交流では、新たな考えや疑問をもつことができる。	85.8%	90.0%
授業で学んだことを、次の学習や他の教科の学習で役立てている。	79.5%	84.8%
話のつながりを意識し、大事なことを考えて、読んだり聞いたりしている。	78.1%	80.6%
自分の考えを伝えるとき、相手や目的などを意識して、伝え方を工夫している。	84.1%	86.2%



1年生の作品「本のPOP」と本をセットで展示

過去の成果物と
本をセットにして
学習する時期に
合わせて、
図書室に配架

過去の成果物を
言語活動のモデルに



つきたい力

茨木っ子力
(ゆめ力・つながり力・自分力・つながり力)

取組みの概要・ポイント

- ・児童の感情にフォーカスした授業づくり(ギミックブラッシュアップシートの活用)
- ・マインドセットとふりかえり・授業のAARサイクル

具体的な取組みの内容 ギミックブラッシュアップシート・マインドセットとふりかえり

すべての子どもが主体的に学ぶ授業

①明確な単元の目標 (この力をつけよう)

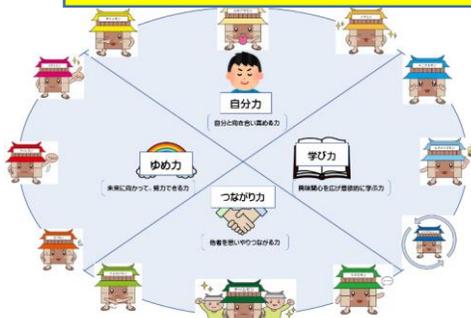
②単元計画 (こんな学習をしよう)
評価計画 (その力が身についた姿はこんな姿だ)

③アセスメント
個に応じたたて

④評価 (目標とした力がみについたかどうか確かめよう)

子どもたち自身が、この時間はどのように学習に取り組みたいと行動のめあてを立て(マインドセット)学習していく『タイタイタイム』を授業の中に取り入れている。また、ふりかえりでは、自分の行動のふりかえりを行うことで、子ども自身が自分の学び方について改善しようとする力を養っていく。

タイタイタイム (マインドセット)



子どもの学習改善



教師の授業改善



ギミックブラッシュアップシート

単元	人物の気持ちと行動を表す言葉	学年など	4年5組
1学期のチャレンジ	児童の実態に応じたスモールステップをできる限り設定する		
本時の目標	人物の気持ちと行動を表す言葉について、意図に合った言葉を選んで文を書くことができる。		
感情イメージ	感情イメージ 感情イメージ 感情イメージ		
1時間の流れ	アクション・ギミック やら茨木っ子力		
導入	ハチノオの気持ちを考える ★電子黒板で拡大表示 教員ギミック		
めあてを知る	「人の気持ちと行動を表す言葉を知ろう」 ★ウワザ 教員ギミック		
授業の進め方を知る	見直しを持たせる		
たいたいタイム	自分の気持ちや行動のめあてを 紙に書く 活動ギミック		
自力解決①	1つ目の絵を見て気持ちを想像し、 文を書く 活動ギミック		
交流	近くの児童と書いた文章を交換する。 ペアワーク 空想ギミック		
解決②	2つ目の絵を見て気持ちを想像し、 文を書く 活動ギミック		
まとめ	ペアで交流した上で、自分の書い た文と交換し読みあわせる 空想ギミック		
ふりかえり	★ふりかえりシート 自分の書いた文章をもう一度読み かえる 教員ギミック		

授業のAARサイクル



定期的にギミックブラッシュアップシートを作成し授業を行うことで、授業イメージや授業ストーリーを視覚化しながら子どもの感情にフォーカスした授業づくりについて授業を見直す機会を設けている。

取組みを通しての子どもの変容

タイタイタイム (マインドセット) の活動により、「この時間はこのように学習しよう！」と学習に向かう姿勢を自己決定し、主体的に学習に取り組む児童が増えた。また、ふりかえりでは、つきたい力と自分の行動を関連付けながら、自身の言葉で具体的に表現できる児童が増えた。

つきたい力

- ・自ら学ぶ力（筋道を立て粘り強く取り組む・自らの学びを調整する）
- ・ともに学びあう力（共感して聞く・的確に伝える）

取組みの概要・ポイント

- ・つきたい力（ゴール）を明確にした授業づくり
- ・「学ぶ必要感」のある単元計画・言語活動の設定

具体的な取組みの内容「学ぶ必要感」を意識した単元づくり

つきたい力（ゴール）を明確にした授業づくり

- ・国語では、指導事項を確認し、何のために学習をするのか必要感をもって学習に取り組めるようにする。
- ・相手意識・目的意識・言語活動・つきたい力を明確にした単元目標を設定する。
- ・単元開きとともに、子どもたちとつきたい力を共有し、どのような姿がゴールなのかを明確にする。

●人がつづけるようすをおもいうかべる

このものがたりでつきたいことばの力

一人ひとりのあたまの中はあいてつたりのないことばで、かいたりのことばで、はなしたりのことばでつづけていく。

一人ひとりのあたまの中はあいてつたりのないことばで、かいたりのことばで、はなしたりのことばでつづけていく。

「学ぶ必要感」のある単元計画・言語活動の設定

- ・算数の単元導入では、子どもたちの生活や興味と結び付けた課題を設定することで、解決してみたいという思いが生まれる。
- ・既習事項では解決できないことに気づき、「学ぶ必要感」をもって学習に向かう。



三島小の円形小プールを使った、円の面積の導入。身近なものだからこそ調べてみたくなる。

このデータをもとに、A君のおこづかいはみんなとくらべて少ないか高いかを考えてみましょう。

A君のクラスのおこづかい

1000	800	600	1500	600
2000	1200	600	2500	900
2000	200	5000	500	600
600	800	1500	500	600

データの調べ方の単元導入。既習事項の「平均」ではうまく解決できないので、新しい見方が必要となる。

だれに？

友だちに・下級生に
おうちの人に

なんのために？

好きな場面を話したい！
思い出を知らせたい！
生き物のひみつを教えたい！
自分たちの思いを伝えたい！

【言語活動の例】

- ・ペープサートげきをしよう
- ・どくしよざだんかいをしよう
- ・おうちの人に二学期の思い出をくわしく伝えよう
- ・生き物図鑑をつくらう
- ・「注文の多い料理店」のおもしろさの解説書を作らう
- ・プレゼンテーションをしよう

どうやって？

げき・ざだんかい・作文・生き物カード・プレゼンテーション

UD(ユニバーサルデザイン) & ID(インクルーシブデザイン)の授業

- ・モデル文やモデル動画を提示することで、どのような文章が書けたらよいのか、どのように交流すればよいのかなどをつかみ、見通しを持って取り組めるようにする。
- ・環境整備、授業の構造化、視覚化や動作化、ICT機器の活用等を通して、誰もが安心して学習に参加できる工夫をする。
- 「一人で、ペアで、グループで、先生と…」
- 「ノートに書く・タブレットで書く・ヒントカードを使う…」
- ⇒ 様々な学び方や表し方を自分で選択できるようにする。

「わすれられないおくりもの」

名前 ○ ○ ○

① 最初の段階
わたしはこの物語を読んで、死んでしまったアナグマの思い出がみんなの心に残っている、心温まるお話を思いました。

② 一番心に残ったところは、アナグマがみんなに手紙を残していた場面です。もの知りなアナグマは、自分ももうすぐ死んでしまうことも知っていたから、手紙を残したのだと思います。そして、なぜ手紙の内容がどれも短くてあっさりしていたのか、とわたしの問いももちました。自分なりの解決は、体がなくなっても心は残ると思っていたから、たくさん書かなくてもいいと思ったのかなと思いました。

③ この題名にサブタイトルをつけるなら「すてきな思い出」だと思います。アナグマが死んでしまった自分のみんなは思い残すことなく、アナグマとの楽しい思い出を話すと、温かい気持ちになります。アナグマはみんなの心の中で生きていっているのかなと思いました。

モデル文を示すことで、苦手な子ども、それを手掛かりに粘り強く取り組むことができる。

取組を通しての子どもの変容

子どもたちの生活や興味と結び付けた課題設定によって、子どもたちの「学ぶ必要感」が高まり、自ら学ぶ姿へとつながった。また、そのような課題が、学習を好きだと感じたり、わかりやすく楽しいと感じたりすることにもつながった。全国学力・学習状況調査の結果、無解答率が昨年度に引き続き全国平均を下回っており、粘り強く問題に取り組む姿が見られた。

アンケート項目	4月	7月	12月
算数の授業が好きだ	70.8%	75.9%	78.3%
算数の授業はわかりやすく楽しい	80.9%	83.4%	85.1%

つきたい力

- ・「目的意識」「相手意識」を持ち、主体的に学ぶ力
- ・友だちとつながることで、自らの学びを深める力

取組みの概要・ポイント

- ・「やりたい」「楽しそう」と感じて学習できるよう、魅力あるゴールを設定する。
- ・人とやり取りする中で学びを深めるために、ペアトークを取り入れた授業展開。

具体的な取組みの内容

主体的な学びのためのゴール設定



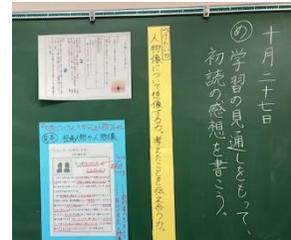
2年生「ニャーゴ」
人物の様子を想像する力をつける
ために全文音読発表会を行う



4年生「一つの花」
題名の持つ意味をさぐって表紙
カードに表したものを読み合う



3年生「せっちゃんざいの今と昔」
要約したポスターをみんなで見合っ
て評価する



5年生「大造じいさんとがん」
単元開きでは単元計画とゴール
見本を見せて見通しを持たせる

つながるためのペアトークを取り入れた授業づくり

- ・人の話を聞こうとする。相手に伝えようとする。
- ・学んだことをアウトプットする。
- ・人とやり取りする中で学びを深める

子どもたちがつながって、主体的に学ぶ



授業前にペアトーク
トークのテーマはAIより選
出し、日々変える



授業中でも発表に自信を
つけるためのペアトーク



作業の途中でもペア交流
して推敲する

- ・読書活動…委員会
や並行読書などを活用
- ・MIM…1年生中心に
- ・漢字教室…休み時間
を利用して実施



ペアで根拠を示しながら
成果物を作成



ペア以外にもグループで推敲し、
学びを深める

取組みを通しての子どもの変容

- ・単元計画をたて、ゴールを設定することで、見通しを持って学習に参加するようになった。
- ・学習意欲が高まり、自分だけでなく周りの友だちがどんなものを書いたのか気にかけるようになった。
- ・授業以外でも、委員会や校内掲示板などの発信を通して他者を意識した子どもが増えた。

ペアトークの検証

- 1年…自分の話が一文で終わっていた。→子ども同士がつながりはじめた。
- 2年…キャッチボールではなく一方通行。→話すことに抵抗感がなくなってきた。
- 3年…お互い向き合って話すよう促す→話し合う内容に深まりが出てきた。
- 4年…質問を最後まで聞かずに話し出す。→授業中の発表者が増えた。
- 5年…長々と話す子が多い。→時間を考えながら、話す内容も向上した。
- 6年…ペアにより態度が変わる。→誰とも抵抗なく話し、授業に活かされている。
- 支援…話し合いのルールが守れない。→楽しんで異学年でも話し合っている。

つきたい力

- ・豊かに生きていくための確かな学力
- ・これからの時代に求められる国語力

取組みの概要・ポイント

- ①「聴きあい学びあう授業の中での読解力の育成」
- ②基礎学力の育成
- ③協同学習
- ④子どもを教材・仲間とつなぐ

基礎学力の定着に向けた取組み

- ①**補充学習 (SSR)**...25分休み、昼休みには授業で分からなかったところや課題が残っている子、もっと学びたい子を支援する学習室を開放し、放課後には算数の宿題を中心に支援を行っている。
- ②**生活アップ**...家庭学習の定着や生活習慣の見直しをするために、学校と家庭が連携して取組みを進めている。
- ③**算数パワーアップ**...1・2学期の個人懇談の時間を利用して、学力の定着に課題が見られる子どもたちを中心に補充学習を行っている。

言語活動の充実

①**言語活動**...国語科を中心に学んだことを、様々な教科や活動の中に生かす「言語活動の充実」についても積極的に取り組んでいく。教材を読んで終わらせず、その学習を通してどんな力がついたのかを確認するために「〇〇日記」を作ったり、並行読書を通して調べてまとめたものを発表したりする活動を通してことばの力や読解力育成を進めている。



②**読書活動**...朝読書は、教職員も一緒に読書をし、集中して読む環境をつくる。全校で同じ図書を使って「ペア読書」も取り入れ、読んだ後に感想を交流しあうことで、読む力だけでなくきき合い伝え合う力をつけることもめざしている。



「学び合い」

〇「わからないことをわからない」と言える集団づくり

まず、子どもの「わからない」という気持ちを受け止め、「わからない」と言った子が、理解して自分の言葉で説明できるように、仲間や教師がかかわる。また、全教職員が授業を公開して「学びあう授業づくり」を進めている。授業を見直し研究すると同時に、学習がにがてな子どもを学びあいの中心に据えることを大切に、全教職員で丁寧子どもたちを見ている。ペアやグループ活動を通して、一人も取り残さない、全員参加の授業づくりに取り組んでいる。

- ◎ クラスに聴きあう関わりを築く。
- ◎ 教職員は、子どもを
 - ・モノ（教材、学習対象）とつなぎ、
 - ・仲間とつなぎ、
 - ・子ども自身とつなぐ
- ◎ つながりのベースとなる集団づくりを大切にする。

〇協同学習・教材や仲間とつなぐ



授業デザインとして、個人の作業の協同化を行う。自分で取り組み、難しい場合は班の友だちにききながら活動を進めさせていく。また、子どもたちの発表や発言の中で、どこからそう考えたのか、教材の中での根拠となることを友だちと共有しながら授業を進めていくことで、仲間とのつながりを最も大切にながら、国語力を育成している。

取組みを通しての子どもの変容

昨年度より「言語活動の充実」に力を入れたことにより、国語が好きという児童が増え、ワークシートなどの文章力も向上した。また、文章を読んでいく中で大切な箇所に線を引いたりすることで、問題の内容をしっかりと把握して取り組む力もついてきた。授業デザインを定着させることで子どもたちがどう学んでいくのか見通しを持って取り組めるようになってきている。また、「わからない」から始めることを大切にするすることで、全員が取り残されず学習に参加できるようになりつつある。

つきたい力

- ・友だちとつながることで、自らの学びをよりよくする力
- ・自分に合った学び方を選択する力

取組みの概要・ポイント

- ・授業改善文化の形成
- ・ポイントを意識した単元づくり

校内全体の授業改善に向けて

授業改善文化の形成

変化の激しい時代。つけるべき力、求められる授業も、時代と共に変化しており、授業改善が一層求められている。

【授業改善のサイクル】



授業を「相互参観」し、授業について「語り」、授業に「取り入れる」というサイクルを職員で共有し、このサイクルを**意識的・日常的に回す**ことをめざした。

【ながら授業観察】

「空き時間がない」「他の業務や丸付けなどで見合う余裕がない」という現状を打破するため、何かしながら授業を見合う「ながら授業観察」を実施した。授業後には、今日の授業や単元について参観者で語り、有意義な時間となった。



ポイントを意識した単元づくり

【つきたい力の明確化】

単元でつきたい力を、学習指導要領で確認する。また、単元のはじめに評価と共に子どもたちと共有する。

◎ゴールの評価について

	A	B	C
表現する力 (思考・判断・表現)	1つを固定して考えたり、図や表を用いて、落ちや重なりがなく調べる方法を考え、適切な方法を選ぶことができている。また、考えたことを筋道立てて伝えることができている。	1つを固定して考えたり、図や表を用いて、落ちや重なりがなく調べる方法を考えることができている。また、考えたことを伝えることができている。	Bに満たない

【魅力的な単元のゴールの設定】

単元でつきたい力を具現化するためのゴールを設定する。その際には、つきたい力とつながるゴールであることだけでなく「幅広い学力の児童が力を発揮することのできるゴールであるか(個別最適な学びの視点)」を1つの視点とする。

単元のゴール：学んだことを生かして「オリジナルロゴ」を作ろう。

以下の中からテーマを選び、学んだこと(できるだけ)生かしてロゴを作ろう。

- ① 学年ロゴ (目標「挑(いどむ)」をテーマにしたロゴ など)
- ② オリジナルブランドロゴ (もし、自分がブランドをつくるなら)
- ③ 新しい水尾の校章 (令和時代の水尾の校章)

モデル



水尾小学校の校章をかつく良くてみました。中央のロゴは点対称かつ線対称に、周りのデザインは点対称を意識しました。

【自己決定の工夫】

・個別最適な学びと協働的な学びの一体化した単元デザインを視点としながら、以下を子どもたちに様々な形で自己決定させることで、学習を“委ねる”

- ①「単元のゴール」をいくつかの中から選ぶ。
- ②「学ぶ相手」を選ぶ。(1人, 2人, 3人以上, 先生, …)



- ③「学ぶツール」を選ぶ。(プリント, ドリル, タブレット, …)
- ④「アウトプットの方法」を選ぶ。
(ノートに文字で書く, タブレットに絵でかく, 動画で話す, …)

【自己調整学習のための計画・振り返り】

単元の計画を子どもたちに手渡し、見通しを持たせる。その上で、自分にとって最適な学び方を学ぶために、1時間ごとに「計画(どんな方法で学ぶか)」「振り返り(どうだったか、次はどうするか)」を考える。また、単元全体に対する大きなまとまりとしての「計画」「振り返り」も行うことで、学びに対する単元間のつながりも持たせる。

取組みを通しての子どもの変容

- ・単元のゴールを工夫することで、見通しと意欲をもって学習に参加する様子が見られた。
- ・子どもたちに“委ねる”学習を行うことで、子どもたちが「個別最適な」学習を行うことができた。得意な子は自分の力をさらに高めることができ、困り感を伝えることが難しかった児童が、先生や友だちに積極的に伝えることができた。
- ・アウトプットの機会が必然的に増え、学習内容への理解が深まるとともに、アウトプットすることそのものの価値を理解する姿が見られた。

つきたい力

取り組みの概要・ポイント

- 自分の考えを持ち、表現する力
- 他者の考えを聴き、自分の考えを豊かにする力

- ①授業研究 ②基礎学力の育成 ③外国にルーツのある児童の学力保障
- ④生活習慣の確立 ⑤豊川(地域)ネットワーク

授業研究の取り組み

基礎学力の育成の取り組み

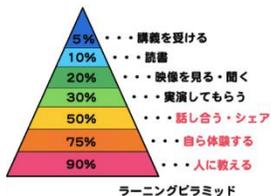
聴き合い、学び合うために(協働学習)

○子どもの実態把握→つきたい力を設定

- ・学力テスト・子どもの実態把握アンケートなどをもとに、子どもたちの課題を分析
- つきたい力を校内で共有

○聴き合う関係をつくるための場づくり

- ・「聴く」を意識 「静かな環境」をつくる
- 先生の声のトーンをさげる。
- ・形態を使い分ける。
- 深い学びにもってける3・4人のグループ
- 支えやすいペア (低学年)



受動的学習
積極的学習

○子ども主体をつくる

- ・ラーニングピラミッドの提示
- ・指示は短く明確に (必要最小限)
- ・教師がモデルになり、聴くことに力を注ぐ。
- 子ども同士が聴き合える姿勢をつくる。(リボイス)
- ・授業でここを考えさせたい、立ち止まりたいときは、一度グループに戻す。
- ・全ての授業で協働学習を意識→授業の始めからグループ・ペア席にする。

○つながりをつくる

- ・子どもたちを観察
- 気になる子には1分以内に声をかける。(わからない子には「訊いてごらん」)
- ・教師はファシリテーター
- グループ内の声かけ・事実をよく聴き、うまくつながっていないグループを教材、教具、それぞれに共通した話題提示をするなどしてグループをつなぐ。
- ・席配置などで、グループがつながりやすい工夫をする。
- 話し合いを引っ張ることができる子・普段よく話している子を斜めに配置し、対話が生まれるよう意識して、席配置をする。

○「共有」「ジャンプ」問題

- 『共有の課題』で安心して授業に入る→教科書レベルの基本を理解する
- 『ジャンプのある課題』(難しい)
- 他者と協同して困難に立ち向かい、深い学びへ。
- 子どもは集中し、主体的に学ぶ



学力保障のために

○こおりやにゃんタイム(縦割り学習)

- ・1~6年で縦割りグループをつくり、交流し、学習する時間をもつ。
- それにより、低学年の学力向上と、高学年の自尊心の向上をめざす。

○ショートストーリー(朝学)

- ・短い内容の物語文や説明文と問題。
- ・心を豊かにしたり、文章から要点を整理したりする力をつける。また、条件付きの問題に取り組むことで読解力をつける。
- ・学力テストの結果分析で課題にあがった問題とき、読む力・書く力・話す聴く力、それぞれ課題に合った問題に取り組む。

○漢字学習(朝学)

- ・毎週水曜朝学の時間に漢字の定着をはかるために、学年(個人)に応じたタブレットの漢字学習を行う。

○自主学習

- ・自発的な学びをおこない、自他ともに認めあうことで、学習意欲、学力の向上をはかる。

○放課後学習

- ☆家庭学習ががたがたな児童や授業時間での学力定着にサポートが必要な児童に対してのサポートをおこなう。
- ・なかよし教室 支援学級在籍の児童を対象におこなう。
- ・パンダ学習 パンダ教室(日本語指導教室)に在籍の児童を対象に行う。
- ・学びルーム 高学年対象におこなう。

○ぬくもり作文(作文教育)

- ・「書きたい」と思える作文教育を通じて、書く力の向上や、集団づくりへとつなげる。

○UDを意識した授業

- ・授業をデザインする時に、指導案にU(ユニバーサルデザインの視点)を取り入れた授業を提案する。
- ・授業の流れの提示
- ・環境整備、授業の構造化、視覚化を意識した授業を提案



取り組みを通しての子どもの変容

- 聴き合い、学び合う子どもたちを育てる授業づくりを豊中校区三校(2小1中)で進めている。どの授業でもできるだけペアやグループの活動を入れ、友だちと話しながら考えを深める授業を通して、安心して学びに向かえる子どもが増えている。
- 学力テストの結果分析から、授業の中で、自分の考えを書く・伝える・表現する時間を入れる授業づくりを進めていく。
→取り組みを通して、ノートに式・答えを書くのみでなく、どのような思考でその式になったのか、説明を書く姿が見られるようになった。
学校全体で子どもの実態を共有することで、どの学年でも同じような視点で、ノート指導・教材研究をしていくことができた。

つきたい力

- ・興味関心を広げ、自ら本を選び、読み進める力
- ・目的に応じて必要な情報を読み取る力
- ・読み取ったことをまとめ、自分の考えを整理し、発信できる力

取組みの概要・ポイント

- つきたい力を育むための並行読書を活用した授業づくりの継続
- 児童が主体的に学びたくなる、魅力的な学習課題の設定

具体的な言語活動のとりくみ

5年生のとりくみ「和の文化を受けつぐ」

1年生のとりくみ「おとうとねずみチロ」

必然性があり、「やってみたい!」と思える課題設定

～今こそ伝えたい、日本文化の「ここがすごい!」～
みんなに知ってほしい日本文化の魅力をみんなに伝えることをゴールとし、並行読書材を用いて様々な日本文化について知った。その後、並行読書マトリクス表を見ながら、自分の書いた紹介文をよりわかりやすくするための資料選びに関して、友だちと意見を交換し合った。

～おとうとねずみチロ～
教科書教材「おとうとねずみチロ」から、場面や登場人物の様子を想像しながら読むことの楽しさを知り、並行読書材を使い、お気に入りの一冊のお気に入りの場面を声に出して読む活動を行った。



教師モデルの（めざすゴール）の提示



最終ゴールとなるリーフレットのモデルを示し、子どもたちが本を読むときや言語活動に取り組む際のポイントを明確にしている。

お気に入りの場面の音読をより深めるために、友だちと意見伝えた。交流を始める前に、伝え方や受け答えの仕方などをイメージしやすいように、教師の対話モデルを映像で見て学んでいる。



並行読書材の活用



メディアサポーターさんとの連携、物流を活用して一人一冊以上の本を用意するようにしている。単元開始時から、子どもたちは本を読み始め、言語活動で活用するページに付箋をはったり、マトリクス表に読書の記録を残していく。



マトリクス表を活用した交流

マトリクス表を見ながら必要に応じた交流相手を選び交流する。もらった意見を持ち帰り、自分の考えを整理する。



マトリクス表の形式を工夫、低学年の実態に合わせ、本のタイトルだけでなく本の表紙も一緒に示すことで、児童がどの本が認識しやすく、読みたい!という意欲にもつながった。



職員にむけた

○昨年度までの図書館活用の研究を今年度からも継続していきけるよう、年度初めに職員全体でこれまでの研究内容や今年度の目標の共有を行っている。

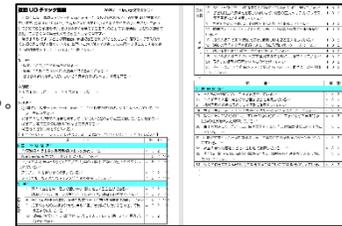
【授業づくりのポイント】

- ・重点項目の確認
- ・並行読書材の選定
- ・目標にあった言語活動の設定
- ・単元計画の作成



○支援教育部と学力保障部が連携し行うUDの視点を取り入れた授業づくり。支援教育部が作成しているUDチェックシートを活用し

校内研究のための指導案作成時にも、UDの視点から授業の練り上げ、見直しを行っている。



○研究授業などの際、同じ視点で授業の観察、ふりかえりを行っていくために授業を見るポイントを整理した授業観察シート（仮）を作成した。今後、使用しながらより、研究テーマに迫っていくよう項目を精査する。

取組みを通しての子どもの変容

○昨年度まで研究を進めていた図書を活用した主体的・対話的な言語活動の授業づくりを全学年で継続して行ったことで、国語を中心として友だちとの対話の中で自分の考えを深めたり、新しい考えに気づく姿が増えた。また、よりよい資料を探したり、調べたことをもとに、自分の考えを話すことができる力がついたりという回答している児童が増加した。

	1 学期	2 学期
国語の授業がわかりますか。	79%	84%
話し合いの学習の中で新しい考えに気づくことがありますか。	83%	85%
生活や授業の中で本やインターネットで調べたことをもとに話すことができますか。	73%	74%

つきたい力

- ・学習に対して自分から取り組む力
- ・さまざまな角度から調べ、考えたことを表現する力
- ・話し合い活動を通じて、考えを深め新たなことに気づく力

取組みの概要・ポイント

- ・全ての生徒にとって「わかりやすい」「学びやすい」授業環境をめざす『彩都西中授業スタンダード』の定着。
- ・生徒が「楽しい」「学びたい」と感じる課題設定と生徒同士を繋ぐ『協働学習』の推進。

具体的な取組みの内容：「授業スタンダード」とKDG(協働学習)の推進による授業改善

「わかりやすい」「学びやすい」授業づくり(彩都西中授業スタンダード)

①「目標」を意識した授業

- ・年度の初めに全教職員で授業スタンダードを確認し、全ての授業で「目標」と「流れ」を明示。1時間でやること、何を学べたらよいかのゴールを明確に。
- ・「目標」と1時間に学んだことを一目で見られる状態にしておくことで、授業の終わりに生徒自身が振り返りやすく。



彩都西中学校 授業スタンダード

学方向上委員会、支援教育委員会

【重点的な内容】

1. 概ね上述を前提として授業を始めること。
2. 流れが事前にわかるように明示すること。
3. 宿題や提出物は、生徒が確認できるように各授業で明示すること。
4. 学びの活動や課題の進め方を丁寧に示すこと。

【チェックリスト】

【授業準備】

- 事前に自分の担当授業の流れを確認する。
- 授業者の机の上に授業の流れを掲示する。
- 学習の目的や目標を明確に示す。
- 学習の目的や目標を明確に示す。
- 学習の目的や目標を明確に示す。

【授業進行】

- 単元計画、評価基準、授業計画(PP)などを参考に授業を準備し立てる。
- 生徒が理解しやすく授業を進める。
- 生徒が理解しやすく授業を進める。
- 生徒が理解しやすく授業を進める。

【授業振り返り】

- 振り返りが行われていたら見直しを行い、学びが深まったか確認する。
- 振り返りが行われていない場合は見直しを行う。
- 振り返りが行われていない場合は見直しを行う。
- 振り返りが行われていない場合は見直しを行う。

【授業評価】

- 「目標」「流れ」を確認している。
- 概ね上述を前提として授業を進めている。
- 単元計画や評価基準、授業計画(PP)などを参考に授業を準備し立てる。
- 生徒が理解しやすく授業を進める。
- 生徒が理解しやすく授業を進める。
- 生徒が理解しやすく授業を進める。

②「聞く」「書く」「話す」を意識した授業

- ・授業中「聞くとき」と「書くとき」を明確に分けることで、授業内容が理解しやすくなり、生徒の集中力がUP。
- ・全ての授業で「話し合い活動」を意識的に取り入れることで、理解が深まり言語力が向上。

③指導と評価の一体化をめざした授業

- ・単元計画や観点別評価について、定期的に教科会議をもつ。→その内容を職員会議で共通理解。
- ・夏休みに指導と評価の一体化について職員研修→2学期の取組みにいかす。
- ・授業交流週間や学力通信で、各教科の効果的な取組み・授業の紹介→学校全体の授業力UP。

学力向上委員会通信

2023.10.10発行(第10号)

3学期の授業(国語)の授業実践報告

3学期の授業(国語)の授業実践報告

3学期の授業(国語)の授業実践報告

「楽しい」「学びたい」生徒を繋ぐ協働学習(KDG)

①KDGタイム(協働学習タイム)の設定

- ・各教室に協働学習(KDG)タイムやラーニングピラミッドを掲示、全ての教科でほぼ毎時間、協働学習の時間をとる。
- ・個の学びからペア学習・グループ学習へ、主体的で深い学びへ。



個人で(オクリンク+やミニホワイトボードを活用)

ペアで(聴き合い、教え合い、意見交流)

グループで(班に1枚ホワイトボード活用)

自分たちの気づきや考えを発表!



②楽しく学べる活動・課題設定の工夫

- ・歴史人物カルタや英語を使ったゲーム、授業内容につながるクイズなど楽しいだけでなく、学習の定着に繋がり、且つ班で協力する必要がある活動を毎日の授業に取り入れる。
- ・普段の授業を楽しく→学習意欲の向上!
- ・授業で班が繋がる→生活・行事で班・クラスが繋がる→協働学習に更に意欲的に取り組める! という良いサイクルに。



③多面的、多角的な見方や新たな考えに気づく協働学習

- ・新聞記事を読んで、疑問点を次々に出して班で考えを交流する取り組み「ハテナソン(ハテナ+マソン)」で気づく力・考えようとする力を育む。(1年社会)
- ・教科書に載っていない問題に対して、自分なりの考えを書いて他の人と意見交流する「課題にチャレンジ」(2年社会)や「1人1枚ホワイトボード」(3年社会)で考えを深め意見を発表する力を育む。
- ・10月(社会科)11月(英語科)KDGをテーマに研究授業を行い、取組みをさらに推進している。

取組みを通しての子どもの変容

協働学習に前向きに取り組む生徒が多くなり、アンケートでも「授業が楽しい」「授業がよくわかる」という項目の数値が向上している。右表のように、その他の項目でも取組みの効果があらわれている。

アンケート項目	4月	7月	12月
社会の授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。	71.4%	93.2%	96.7%
社会の授業で、1つの事象を様々な角度から見て調べたり考えたことを表現できている。	74.2%	97.1%	97.0%
話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考えに気づくことができている。	71.4%	93.5%	92.0%